

第10節 外国語

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（外国語活動・外国語編）、小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック及び埼玉県小学校教育課程編成要領等を踏まえ、外国語科における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- (2) 教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校の教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を具体的に示した。

2 取り上げた内容

第1 本資料の活用について

第2 外国語科における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 学習指導について
- 3 内容のまとめりと（五つの領域別）の目標
- 4 観点別学習状況の評価の観点について
- 5 内容のまとめりととの評価規準を作成する際の手順と評価の実践への流れ
- 6 評価規準の設定
- 7 言語活動の扱いについて
- 8 振り返りについて
- 9 多様な評価方法について

第3 単元の指導と評価の計画及び改善

- 1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方
- 2 単元の指導と評価の計画例

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

- 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方
- 2 本時の学習指導案（展開部分）の事例
- 3 学習指導案の事例

第5 外国語科における学習評価の評定への総括例

- 1 単元における観点ごとの評価の総括例
- 2 学期末における観点ごとの評価の総括例
- 3 学年末における観点ごとの評価の総括例

3 本資料の活用にあたって配慮すること

- (1) 外国語活動及び学校種間の接続に配慮する
指導と評価の計画の作成にあたっては、中学年の外国語活動並びに中学校及び高等学校における指導と評価の計画との接続に留意する必要がある。
- (2) 指導計画に即した評価を行うこと
各学校で作成した指導計画に即して行う適切な評価を、学習過程の改善・充実を図る一連のサイクルの確立につなげる。
- (3) 学校、家庭及び地域の実態に合った指導計画を立てること
各学校の学習環境や地域の教育資源を活用するなど、カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、指導と評価の計画を作成するように留意する。

4 学力・学習状況調査等の活用

埼玉県学力・学習状況調査から「よい学級経営ができてい学校が、学力や非認知能力を伸ばしている傾向がある」という結果が得られている。人間関係が良好な学級であれば、ペアやグループで行う活動や自己表現活動が充実し、児童の学力や非認知能力を伸ばすことが期待できる。本資料では、この考えに基づき言語活動の扱いに触れるとともに、事例を掲載した。

指導計画作成の留意事項

編成要領（編 P149）で示された「指導計画作成にあたっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 「外国語教育の充実」の視点

第2 外国語科における学習指導と評価

1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

学習指導要領では、外国語科で育成を目指す資質・能力を「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」と規定するとともに、「知識及び能力」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。また、三つの柱を、児童の発達段階に応じて、バランスよく育成することが求められている。(表1)

外国語の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて使用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 学習指導について

(1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる指導のポイントについて

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、外国語を学ぶ本質であり、外国語で互いに考えを伝え合うためには、単に語彙や文法などの知識・技能を身に付けただけでは不十分であり、外国語の背景にある文化や社会を理解するとともに、コミュニケーションの目的や場面などを考慮して自分の考えをまとめていくことが大切だと考えられる。

授業においては、コミュニケーションの一連の過程を通して、このような見方・考え方を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、児童の発達段階に応じて、見方・考え方を豊かにしていくことが重要となる。見方・考え方を確かめ豊かなものとすることで、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることになる。さらに、こうした学びの過程が外国語教育の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながる。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を視点とした授業改善について

資質・能力の育成や生涯にわたる学びにつながる意味のある学びとするために「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点から、以下のような不断の授業改善が求められている。

ア 「主体的な学び」の視点

- ・ 単元の中で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設ける。
- ・ 児童が興味関心をもつことのできる題材を取り上げたり、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定したりして学習への動機づけを図る。

イ 「対話的な学び」の視点

- ・ 他者と情報や考えを伝え合う活動を設ける。
- ・ 他者を尊重しながら対話を図る活動を設定したり、他者の考えに触れて自らの考えを振り返ったり深めたりするよう促す。

ウ 「深い学び」の視点

- ・ 資質・能力の三つの柱が総合的に育成されているかに留意しながら単元を計画する。
- ・ 授業では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定し、必然性のある活動を効果的に設計する。

外国語教育において、①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、という学習過程を単元や授業に位置付けることで、「主体的・対話的で深い学び」を推進することができる。

3 内容のまとめりと（五つの領域別）の目標

外国語科において、内容のまとめりとは、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の五つの領域を指す。五つの領域別の目標の記述は、資質・能力の三つの柱を総合的に育成する観点から、それぞれを三つの柱に分けずに一文ずつの能力記述文で示している。

(表2)

内容のまとめり	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話されれば, 自分のことや身近で簡単な事柄について, 簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 イ ゆっくりはっきりと話されれば, 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 ウ ゆっくりはっきりと話されれば, 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 短い話の概要を捉えることができるようにする。		
読むこと	ア 活字体で書かれた文字を識別し, その読み方を発音することができるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。		
話すこと [やり取り]	ア 基本的な表現を用いて指示, 依頼をしたり, それらに応じたりすることができるようにする。 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について, 簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして, 伝え合うことができるようにする。		
話すこと [発表]	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 イ 自分のことについて, 伝えようとする内容を整理した上で, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ウ 身近で簡単な事柄について, 伝えようとする内容を整理した上で, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。		
書くこと	ア 大文字, 小文字を活字体で書くことができるようにする。また, 語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について, 例文を参考に, 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。		

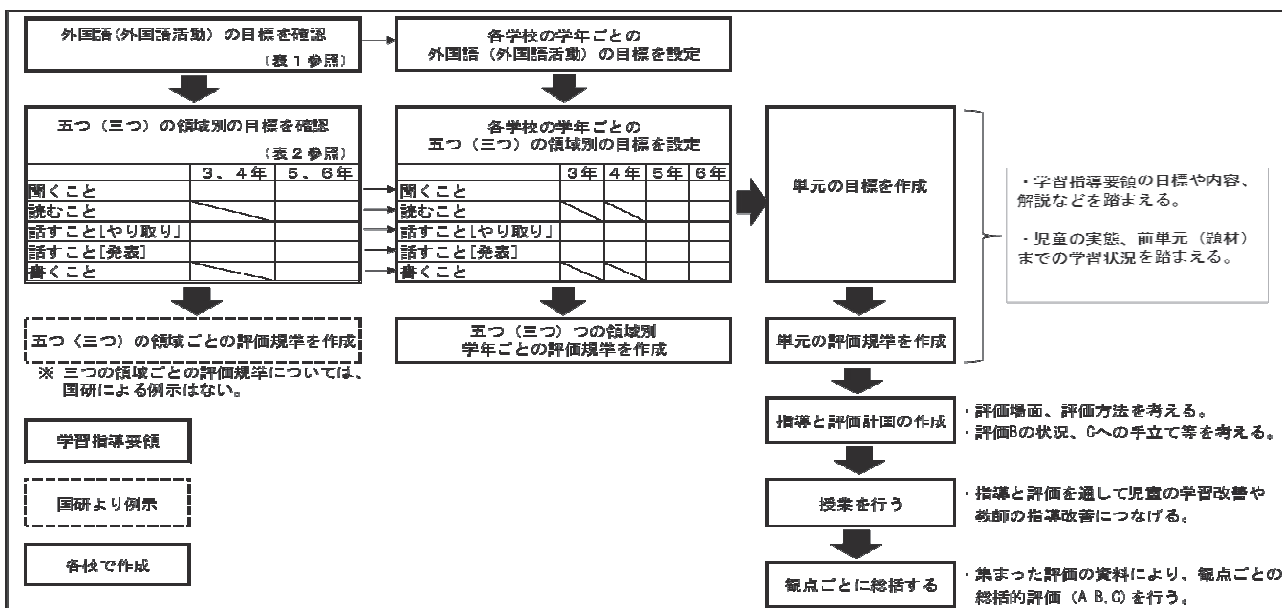
4 観点別学習状況の評価の観点について

(表3)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・外国語の音声や文字, 語彙, 表現, 文構造, 言語の働きなどについて, 日本語と外国語との違いに気付き, これらの知識を理解している。 ・読むこと, 書くことに慣れ親しんでいる。 ・外国語の音声や文字, 語彙, 表現, 文構造, 言語の働きなどの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 身近で簡単な事柄について, 聞いたり話したりして, 自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり, 語順を意識しながら書いたりして, 自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 他者に配慮しながら, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
留意点	各教科等における学習の過程を通して知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに, それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で, 他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり, 技能を習得したりしているかについて評価する。	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力, 判断力, 表現力等を身に付けているかどうかを評価する。	知識及び技能を獲得したり, 思考力, 判断力, 表現力等を身に付けたりするために, 自らの学習状況を把握し, 学習の進め方について試行錯誤するなど, 自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

5 内容のまとめりごとの評価規準を作成する際の手順と評価の実践への流れ

学習指導要領や国立教育政策研究所から例示される資料等に基づき、下記の手順で評価規準を作成する。



6 評価規準の設定

以下に、単元や本時の評価規準を作成する段階での、評価規準の設定例を示す。

「話すこと [やり取り]」の評価規準の設定例

(表4)

	基本的な形	基本的な形に置き換えた例	留意点
知識・技能	<p><知識> 【言語材料】について理解している。</p> <p><技能> 【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】などを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p><知識> 疑問文のうち、do で始まるもの、疑問詞 what で始まる構文について理解している。</p> <p><技能> 自分や相手のことについて、Do you ~?や What do you ~?を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【言語材料】当該単元で扱う言語材料が入る。 【事柄・話題】当該単元で扱う題材における話題等が入る。 【内容】当該単元の中心となる言語活動において伝え合う、【事柄・話題】についての自分の考えや気持ち、あるいは指示や依頼及びそれらへの応答など、伝え合う内容が入る。
思考・判断・表現	<p>【目的等】するために、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、【内容】などを伝え合っている。</p>	<p>新しくやってきたALTのことを理解したり自分のことを伝えたりするために自分や相手のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【目的等】当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションの目的や場面、状況を「〇〇に応じて」「〇〇するよう」「〇〇するために」などの形に当てはめる。その際、学習指導要領の「言語活動の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。
主体的に学習に取り組む態度	<p>【目的等】するために、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、【内容】などを伝え合おうとしている。</p>	<p>新しくやってきたALTのことを理解したり自分のことを伝えたりするために自分や相手のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的にとらえている状況については、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

<置き換える事項>

- **言語材料**：学習指導要領の2内容〔知識及び技能〕(1) 英語の特徴やきまりに関する事項
エ 文及び文構造
※ 「音声」の特徴を捉えて話すことについては、それ自体を観点別評価の規準とはしない。(ネイティブ・スピーカーやデジタル教材等を活用するなど、適切に指導は行う。)
- **事柄・話題、内容、目的等**
：学習指導要領の2内容〔思考力、判断力、表現力等〕(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

7 言語活動の扱いについて

「外国語活動」及び「外国語」における言語活動

学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる全ての活動が言語活動と捉えられるものではなく、言語材料について理解したり練習したりするための活動と区別されている。例えば、発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動等は、言語活動ではなく練習と捉えられる。練習は、言語活動を成立させるために重要であるが、練習だけで終わることがないように留意する必要がある。

8 振り返りについて

授業中の観察に加え、授業や単元の最後に行う振り返りを併用することで、児童が「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、①粘り強い取組を行おうとする側面や、②自らの学習を調整しようとする側面を、より一層深く見取っていくことが大切である。

振り返りカードの記載内容を点検・分析することで、教師は、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、さらには、学校における教育活動を組織として改善することができる。また児童は、自分のよい点や可能性、進歩の状況などを知ることができる。

振り返りカードの例

めあて	
1日の生活について、どんなことを話しているかがわかりましたか。	◎ ○ △
今日の学習をふりかえって、「考えたこと」「工夫したこと」「新しく学んだこと」などを書こう。	

記述内容の活用例

次は、ほくの好きな教室を「あいらく」
びな いほうで 言えるようにする。
もっと、分かりやすくせつめいできるようにね。

記述内容から、次時の活動への意欲を見取ることができる。

もっと大きな声で、は。きり発表したが、たです。
もっと思いをこめて発表したが、たです。

記述内容から、次時の授業展開に生かすことができる。

はじめ先生が何をしつおんしているか
わかりませんでした。でも、友達が答えているのを
何回も聞いていたうちにたん生田について話している
ことがわかりました。

始めは何を聞かれているのか、分からなかったが、友達の発表を聞いて内容を理解できたという記述から、学習に粘り強く取り組んだことが読み取れる。

わたしは、今日のめあてを意識しきり
がんばりました。トライアングルは三角
開クたからトライアングルということがわかりました。

「めあてを意識した」という記述から、自己調整している様子を見取ることができる。

9 多様な評価方法について

学習評価は、資料を集積していくことで、その児童の実態を適切に評価することができる。その実施に当たっては、多様な評価方法から適切なものを精選して行う必要がある。以下に評価方法の例を示す。

評価方法の例

(表5)

評価の観点	方法	評価場面等
知識・技能	行動観察	授業中のペアワーク、グループワーク、教師との会話活動、課題解決的活動等
	ペーパーテスト	選択肢の選択、線で結ぶ等により既習事項の習得状況を確認
	ワークシート	授業の概要を理解できているか確認
	振り返りカード	授業の概要を理解できているか点検・分析
	教材等	記入事項、スピーチメモ等
思考・判断・表現	行動観察	授業中のペアワーク、グループワーク、教師との会話活動、課題解決的活動等
	ポートフォリオ	ワークシート、活動の様子の写真、スピーチメモ等のファイリングを分析
	パフォーマンス	発表、作品の制作や表現等 ・スピーチ…発表内容、表現、表情、スピーチメモ等 ・インタビュー…面接でのやり取り ・スキット…授業中の会話活動等
主体的に学習に取り組む態度	行動観察	授業中のペアワーク、グループワーク、教師との会話活動、課題解決的活動等
	教材等	記入事項、スピーチメモ等の記述
	ポートフォリオ	ワークシート、活動の様子の写真、スピーチメモ等のファイリングを分析
	振り返りカード	自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか、点検・分析
感性、思いやりなど	個人内評価	観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童一人一人のよい点や可能性、進捗の状況について評価する。

第3 単元の指導と評価の計画及び改善

1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方

- (1) 単元の指導計画の作成に当たっては、本単元で目指す児童の姿（以下「ゴール」という。）を明確にし、ゴールから逆算した（バックワード・デザイン）1単位時間ごとの目標を設定し、言語活動を組み立てていく。その際、以下の点に留意すること。
 - ア 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の言語習得における特性を踏まえる。
 - イ 単元を通じて繰り返し取り組ませる活動を位置付ける。
 - ウ 単元の初期段階で言語活動を通して音声に慣れ親しませる活動を展開し、言語の意味や働きなどを理解させる。その上で、後期段階においては、設定された場面の中で自分の考えや気持ちを互いに伝え合う言語活動を展開するなど学習過程を工夫する。
- (2) 単元の評価の計画の作成に当たっては、単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価の場面を精選するように留意すること。また、学習評価の方針を事前に児童と共有する場面を必要に応じて設けることは、妥当性や信頼性を高めるとともに、児童自身に学習の見通しをもたせる上で重要である。
- (3) 単元の指導計画においては、日々の授業における児童の学習状況を適宜把握することにより、指導方法等を見直し、指導の改善を図りながら進めていくことが重要である。

(4) 年間指導計画では、評価の観点を加え、以下のように表記する。

時数	単元名	単元目標	主な活動例	評価の観点			表現例	新出語彙・ 語句例	既習表現・ 語彙例
				知技	思判表	態			
4 8単位 時間	What time do you get up? 一日の生活	<ul style="list-style-type: none"> 小文字の書き方や、一日の生活について尋ねたり答えたりする表現が分かる。 一日の生活について、まとまりのある話を聞いてその概要が分かったり、順序立てて伝え合ったりする。 他者に配慮しながら自分の一日の生活について伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の一日の生活に関する基本的な表現を聞いて、具体的な情報を聞き取る。 自分の一日の生活について伝え合う。 活字体の文字の音に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。 	聞			What time do you (get up)? I usually (get up) at (7:00). I always (wash my dishes).	always, usually, sometimes, never, at 手伝いの表現 (wash my dishes, set the table, walk my dog, clean the room, get the newspaper)	What time is it? It's (). 日課, 数, 動作, 曜日, スポーツ, 教科

2 単元の指導と評価の計画例

**<事例1> 『『聞くこと』から『話すこと[発表]』につなげること』をねらった事例
第5学年『We Can! 1』Unit 4『What time do you get up?』一日の生活』
指導要領との関わり：内容(1)イ(ア)、ウ(ア)、エ(ア)d、(3)①ア(イ)、エ(ア)、②ア(ア)、イ(ウ)**

(1) 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

単元のゴールを示し、それを目指したバックワード・デザインの単元構成を工夫することが大切である。本単元のゴールとなる活動として設定した「自分の日常生活紹介」を行うためには、必要な表現や語彙を使うことができるようになるための活動を段階的に設定する必要がある。ゲームをするから楽しいのではなく、児童の知的好奇心を踏まえつつ、思考を働かせる場面があり、魅力的な活動があるから楽しいと感じられるように、以下のような活動を実践することに留意して、言語活動を計画的に設定している。

- ①単元終末に設定されたゴールを知り、そのために必要な新しい表現に出会う活動
- ②新しい語彙や表現に慣れる活動
- ③表現（やり取り）により慣れる活動
- ④「友達と協力して課題を達成する」コミュニケーション活動

(2) 学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

観点別学習評価については「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点において実施する。これらの観点については、毎回の授業で全てを見取るのではなく、単元や題材を通じたまとまりの中で、指導に応じた評価の場面を適切に設定していくことが重要である。また、評価に当たっては、多様な評価方法から、その場面における児童の学習状況を適切に評価できる方法を選択して評価することが重要であることから、本単元では、単元の最後に児童の発表の場を設け、児童のパフォーマンスの状況を評価することとした。さらに、その実践に向けて段階的に設けた各活動を通して、学習過程における児童の取組状況を把握することで、主体的に学習に取り組む態度を見取れるようにしている。

(3) 評価に基づく改善のポイント

同じ観点の評価について複数回の評価場面を設けることで、ねらいを達成できた児童を単元の終末までにできるだけ増やせるようにするとともに、その過程において、児童一人一人のつまづきの状況を丁寧に把握することで、指導の改善に生かせるようにしている。

(4) 単元の評価計画の実際

○ 単元の目標

- ・一日の生活について聞いたり言ったりすることができる。また、活字体の小文字を書くことができる。 〈知識及び技能〉
- ・一日の生活に関するまとまりのある話を聞いておおよその内容を捉えたり、一日の生活について伝え合ったりする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・聞き手に配慮しながら、自分の一日の生活について伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

○ 単元の評価規準

(本単元における「読むこと」及び「話すこと [やり取り]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない)

	聞くこと (聞)	話すこと [発表] (発)	書くこと (書)
知識・技能	<知識> ①動作や頻度を表す語句の意味や働きを理解している。 <技能> ②日常生活について、動作や頻度を表す表現を含む短い話の具体的な情報を聞き取ることができる。		<技能> ①活字体の小文字を書く技能を身に付けている。
思考・判断・表現	①日常生活について話している場面で、推測しながら聞き、話している概要を捉えている。	①聞き手に伝わるように、自分の日常生活について、頻度も含めて紹介している。	
主体的に学習に取り組む態度		①聞き手に伝わるように配慮しながら、自分の日常生活について、頻度も含めて紹介しようとしている。	

○ 単元計画 (8時間)

時	◆目標・○活動	評 価			
		知・技	思・判・表	態	
1	◆動作の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の小文字の書き方が分かり、小文字を書くことができる。 ○Let's Watch and Think 1 ICT機器を用い、デジタル教材を活用することで、様々な国の子供達が話す姿を見ることができ、意欲を高めることができる。 ○Sit Down Game ○ポインティングゲーム ○Let's Chant "What time do you get up?" 外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるよう、リズムやイントネーションを手拍子するなどの配慮をする。 ○Sounds and Letters				※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価はしない。 [評価についての考え方] 単元のはじめは、単元のゴール(自分の日常生活紹介)で活用するための知識・技能(動作、日課、頻度等の表現)の習得のための練習時間となることが多い。その場合には記録に残す評価は行わないが、児童の学習状況を把握し、学習改善を促す評価や、教師の指導改善に生かす評価は毎時間行う必要がある。
2	◆頻度や日課を聞いたり言ったりできる。また、アルファベットの活字体の小文字の書き方が分かり、小文字を書くことができる。 ○Small Talk: 朝食 ○Let's Play 1 ポインティングゲーム ○マジョリティ調査 それぞれの違いに気づき、一人一人違いがあることを大切に学級集団作りにつなげる。 ○Let's Chant "What time do you get up?" ○Let's Play 2 ○Sounds and Letters				※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価はしない。
3	◆一日の生活についてまとまりのある話を聞いておおよその内容を聞き取ることができる。また、アルファベットの活字体の小文字の書き方が分かり、小文字を書くことができる。				

外国語

	<p>○Sit Down Game ○Let's Chant "What time do you get up?" ○Let's Listen 1 ○Let's Play 3</p> <p style="text-align: center;">P214 指導計画作成 の留意事項(4)</p> <p>ALT や英語が堪能な地域人材などと連携し、現実に即した本当のことを繰り返し何度も聞かせる。</p>	聞 ①			<p>◎日常生活について、動作や頻度を表す語句の意味や働きを理解している。 ＜発表観察・振り返りカード点検＞</p>
4	<p>◆一日の生活について頻度を含めて伝え合うことができる。また、アルファベットの活字体の小文字の書き方が分かり、小文字を書くことができる。</p> <p>○Small Talk：日課 ○Activity ○Let's Chant "What time do you get up?" ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters</p>	聞 ②			<p>◎日常生活について、動作や頻度を表す表現を含む短い話の具体的な情報を聞き取ることができる。＜記述点検＞</p>
5	<p>◆一日の生活についてまとまりのある話を聞いておおよその内容をとりえるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かる。また、アルファベットの活字体の小文字の書き方が分かり、小文字を書くことができる。</p> <p>○Small Talk：いつもすること・しないこと ○Let's Chant "What time do you get up?" ○Let's Listen 2 ○Let's Watch and Think 2 ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters</p>	聞 ①			<p>◎日常生活について話している場面で、推測しながら聞き、話している概要を捉えている。＜記述点検＞</p> <p>◎活字体の小文字を書く技能を身に付けている。＜ワークシート点検＞</p>
6	<p>◆聞き手に配慮しながら、自分の一日の生活について伝えようとする。また、アルファベットの活字体の小文字の書き方が分かり、小文字を書くことができる。</p> <p>○Let's Watch and Think ○Let's Read and Write ○自分の日常生活紹介準備 ・話すことを整理し、見通しをもたせ、文字やイラストを頼りに、話す練習をする。 ○Sounds and Letters ・同じ音で始まる語を考えて発表する。</p> <p style="text-align: center;">P214 指導計画作成 の留意事項(2)</p>	発 ①			<p>◎聞き手に伝わるように配慮しながら、自分の日常生活について、頻度も含めて紹介しようとしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞</p>
7	<p>◆聞き手に配慮しながら、自分の一日の生活について伝えることができる。また、アルファベットの活字体の小文字の書き方が分かり、小文字を書くことができる。</p> <p>○Small Talk：一日の生活 ○Let's Chant "What time do you get up?" ○Let's Listen 3 ○自分の日常生活紹介（ペア）</p> <p style="text-align: center;">「思考・判断・表現」の育成を目指す活動への取組の中で、「主体的に学習に取り組む態度」も併せて評価する。</p>	発 ①			<p>既習事項に繰り返し触れられるよう、単元を通じて、類似している話題で同様の活動を行っている。児童の発表のための良質なインプットとなるように、使う表現を工夫する。</p> <p>◎聞き手に伝わるように、自分の日常生活について、頻度も含めて紹介している。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞</p> <p>◎聞き手に伝わるように配慮しながら、自分の日常生活について、頻度も含めて紹介しようとしている。 ＜行動観察・振り返りカード点検＞</p>

<p>○Sounds and Letters</p> <p>単元で学習したアルファベットを用いた家庭学習用シートを活用し、アルファベットの小文字を楽しみながら繰り返し書くようにさせる。</p>	<p>書</p> <p>①</p>		<p>◎活字体の小文字を書く技能を身に付けている。〈ワークシート点検〉</p>
<p>8 ◆聞き手に配慮しながら、自分の1日の生活について伝えようとする。</p> <p>○Let's Chant "I always wash the dishes." ○自分の日常生活紹介（発表）</p> <p>○Story Time</p>		<p>発</p> <p>①</p> <p>発</p> <p>①</p>	<p>◎聞き手に伝わるように、自分の日常生活について、頻度も含めて紹介している。 〈行動観察・振り返りカード点検〉</p> <p>◎聞き手に伝わるように配慮しながら、自分の日常生活について、頻度も含めて紹介しようとしている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

- 本時の学習指導に当たっては、指導者は本時のねらいを十分に理解するとともに、コミュニケーションの目的や場面、状況等を十分考慮した上で学習活動を設定する。また、言語習得の特性等を踏まえ、「聞くこと」等によるインプットを十分に行ってから、徐々に「話すこと」等のアウトプットに移行するような学習展開になるよう配慮する。
- 本時の評価に当たっては、活動の観察やパフォーマンス評価（インタビュー [面接]、授業内の発表、児童が書き記したワークシートや作品等の評価）など、多様な評価方法から児童の学習状況を適切に評価できる方法を選択して評価するようにする。また、本時の授業内の評価だけでなく、単元全体を通して児童の学習状況を評価するよう留意する。
- 本時の評価結果を基に、指導方法等を改善し、児童の学力の育成に結び付けられるようにする。そのために、児童の取組状況や学習内容の定着の度合いを適宜確認・把握して、指導計画の見直しや改善に生かし、授業改善につなげる。

2 本時の学習指導案（展開部分）の事例

＜事例2＞ 「スピーチの原稿を作成するための言語材料の習得」をねらった事例
第6学年『We Can! 2』Unit 4『What time do you get up?』一日の生活
指導要領との関わり：内容(1)イ(ア)、ウ(ア)、エ(ア) d、(3)①ア(イ)

- 本時の学習指導案（展開部分）の作成に当たっての工夫、配慮事項等
本時では、言語材料の定着のために、繰り返し聞き、表現に慣れ親しむ場面を設定している。特に Small Talk やマジョリティ調査（どのようなタイプの人が多数派なのかを確認する調査）では児童自身に関わることを話題にすることで、「聞きたくなる」、「話したくなる」工夫をしている。また、児童は頻度を表す表現と初めて出会う。児童の興味・関心を引き付ける「場面設定」と「聞かせる内容」に留意し、聞く必然性のある活動となるよう工夫した。
- 評価に当たっての工夫、配慮事項等
語彙や基本的な表現について十分に聞く活動を設定し、繰り返し言語材料をインプットするとともに、チャンツを活用して英語的なリズムを伴った話し方にも慣れ親しむことができるようにしている。また指導者と児童のやり取りを見せることで、ペアでの活動に見通しがもてるようにしている。小文字を書く際には、大文字との形の違いや間違えやすいものについて確認をしながら書かせるとともに、ワークシートを活用することで児童の学習状況を把握できるようにした。

ただし、本時は単元前半部分に当たり、まだ学習内容の十分な定着が図られておらず、評価を実施するための適切な場面であるとは言えないと考え、目標に向けて指導は行うが、本時内で記録に残す評価は行わないこととした。

(3) 評価に基づく改善のポイント

本時に学習する表現への慣れ親しみが十分でなかった場合には、次時においても児童にとって身近な話題となるような場面設定を行い、学習表現を再度繰り返し聞かせるようにする。小文字については毎時間少しずつ練習する中で、定着していない文字については、形に着目させたり、音と文字を一致させたりする活動を取り入れるなどしながら繰り返し扱うようにする。

(4) 学習指導案（展開部分）の実際

指導案 2 / 8 (1 単位時間の計画)

目標 頻度や日課を聞いたり言ったりできるとともに、小文字の書き方が分かり、小文字を書くことができる。

準備 デジタル教材・・・**デ教**、児童用テキスト・・・**テキスト**、絵カード・・・**絵カ**、
ワークシート・・・**WS**、振り返りカード・・・**振カ**

○本時の展開 (2 / 8)

時間	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
8分	○挨拶をする。 ○Small Talk：朝食	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・朝食について話す。数人の児童に質問をしながら児童全員を話に巻き込むようにする。	絵カ (頻度・飲食物)
<p>Small Talk の例 ※カレンダーの曜日を指し示したり、ジェスチャーや頻度のカードを黒板に掲示したりしながら話す。 T: I always get up at 6:00 on Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday and Saturday. Every day I get up at 6:00. I eat breakfast every day. On Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday and Saturday. I usually eat rice and miso soup for breakfast. On Sunday, Monday, Wednesday, Thursday and Saturday. Not always, usually. I sometimes eat salad for breakfast. On Monday, Wednesday and Friday. Not always, not usually. Sometimes. I sometimes drink milk for breakfast. On Sunday, Tuesday and Saturday. I never drink coffee. I don't like coffee. What do you eat for breakfast? S: Rice. / Bread. T: Always? Usually? Sometimes? (それぞれの絵カードを見せながら)</p>			
<p>児童と頻度を表す語彙との出会いを意識し、児童自身が言葉の意味を類推できるように、繰り返し聞かせながらヒントを示すよう工夫する。</p>		<p>・曜日ではなく頻度について意識が向けられるよう、回数を指で数えるなど、頻度の表し方を工夫する。 ・頻度を表す語彙の意味を、カレンダーを指し示しながら、絵カードのイラストをヒントに繰り返し聞かせ、理解させるようにする。</p>	<p>P214 指導計画作成の留意事項(6)</p> <p>本時は、単元のゴールで活用するための表現習得の練習段階にあることから、記録に残す評価は行わないが、児童の学習状況を把握し、学習改善を促す評価や、次時以降の教師の指導改善に生かす評価は適宜行っていく。</p>
<p>日課についてたずねたり答えたりして、友達のことをもっとよく知ろう。</p>			
3分	○Let's Play 1 ポインティングゲーム (頻度) ・指導者の言う頻度を表す語を聞いて誌面にある絵をさし示す。	・誌面にある頻度を表す語を言い、それに該当する絵を指し示すように言う。	テキスト

<p>10分</p>	<p>○マジョリティ調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の質問に対して4種類の頻度から選んで挙手し、答える。 <p style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">P214 指導計画作成の留意事項(6)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ねらいとする語彙を何度も繰り返し聞かせるために、児童にとって身近で興味のある話題を設定するよう工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・起床、おやつ、テレビ視聴などについて尋ねる。以下の質問をジェスチャーや黒板に絵を描いたり、カードを見せたりしながら質問する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: Do you go to bed at 9:00 / 9:30 / 10:00? Always? Usually? Sometimes? Never?</p> <p>Do you wake up at 6:00 / 6:30 / 7:00 / 7:30? Always? Usually? Sometimes? Never?</p> <p>Do you eat snacks (おやつ)? Always? Usually? Sometimes? Never?</p> <p>Do you watch TV at night? Always? Usually? Sometimes? Never?</p> </div>	
<p>5分</p>	<p>○Let's Chant</p> <p>"What time do you get up?"</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初はデジタル画面を視聴しながら言えるところから言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりとした速さに慣れてきたら、普通の速さで練習させる。 	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">P214 指導計画作成の留意事項(1)</p>
<p>10分</p>	<p>○Let's Play 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり互いに What time do you (get up)? と尋ね、時刻を記入する。ペアを替えて繰り返す。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">実際にコミュニケーションを行う中で、ねらいとする音声を聞かせることができるように、デモンストレーションの仕方を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の起床時間を 誌面「あなた」のところに書き込み、頻度のアイコンに○をするように指示する。 ・代表児童とデモンストレーションをして質問の仕方と答え方を理解させるようにする。 ・児童同士でやり取りをさせる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">[教師の指導改善のためのポイント例] 起床時間の尋ね方や頻度を表す表現の定着が不十分な児童がいる場合は、第3時の Small Talk 等で不十分な部分を補うようにする。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テキスト</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">絵カ</p> <p style="font-size: small;">(頻度・日課)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">P214 指導計画作成の留意事項(2)</p>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: I always get up at 6:00. What time do you get up? S1: At 7:00.</p> <p>T: You get up at 7:00. Always? Usually? Sometimes? S1: Usually.</p> <p>T: You usually get up at 7:00. (言うように促す) S1: I usually get up at 7:00.</p> <p>T: How about S2? What time do you get up? (他の児童も一緒に尋ねるよう促す) S2: I get up at 6:30.</p> <p>T: Always? Usually? Sometimes? S2: Always.</p> <p>T: You always get up at 6:30. (言うように促す) S2: I always get up at 6:30.</p> </div> <p style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">ペアでの活動中に、頻度を表す語彙を使ってやり取りをする児童が見受けられたことから、よい例として他の児童に紹介するとともに称賛する。</p>	

5分	○Sounds and Letters ② (v, w, x, z) ・大文字と比較しながら、v, w, x, zの書き方を知り、形や4線上の書く位置に注意を払いながら、ワークシートの4線上に文字を書く。 ・アルファベットの文字の名称を聞いてその文字を書く。 P214 指導計画作成の留意事項(3)	・国語科の指導と連携し、書く前に児童がアルファベットの文字の読み方を確認できるようにする。書き間違いやすいものについては、児童と書き方や4線上の位置について確認してから始めるようにする。 ・デジタル教材の音声を聞かせてその小文字を書くように指示する。 ① v ② x ③ z ④ w ⑤ o, x	
		デジタル教材 「教材どうぐばこ」→「素材種類別」 →「アルファベットの名前・音」・「アルファベットの書き順」	
1分	○本時のまとめをする。	・本時のねらいに照らしてまとめをする。	
3分	○本時の活動の振り返りをする。振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・本時のねらいに照らして、児童が分かったことや分からなかったこと、考えたことや感じたことを振り返るようにし、向上したことや学び方のよさを確認、実感できるように称賛する。 ・挨拶をする。	振力

3 学習指導案の事例

<事例3> 「音声で十分に慣れ親しんだものを書く」ことをねらった事例
第6学年 『We Can! 2』 Unit 5 『My Summer Vacation』 夏休みの思い出
指導要領との関わり：内容(1)ウ(ア)、エ(ア)f、(2)イ、(3)①ア(ウ)、ウ(イ)、オ(ウ)、②ア(イ)、イ(エ)

(1) 学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項等

本時では「書くこと」を扱うが、書いたり、書き写したりする英語は、音声で十分に慣れ親しんだ語句や、基本的な表現とすることに十分留意する必要がある。そこで単元計画及び本時の展開において、「聞くこと」→「話すこと」→「読むこと」→「書くこと」の言語習得の特性を踏まえた構成となるようにした。また、児童が過度の負担を感じることをないよう、単元を通じて、毎時間少しずつ「書くこと」の言語活動を行うようにした。「書くこと」の指導について、学習指導要領では、語を書く際には「書き写すようにする」とされており、語の綴りを覚えることまでは求められていない。しかしながら、語を書き写す経験は、中学校段階における「書くこと」の指導につながる重要な指導であることを認識して、指導に当たる必要がある。

(2) 評価に当たっての工夫、配慮事項等

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して評価を行う。「聞くこと」及び文字を「書くこと」、「読むこと」に関する評価については、活動の観察、ワークシートや作品（ポスターやパンフレット）の分析等を活用して行う。あわせて、主体的に学習に取り組む態度の観点においては、児童の振り返りカードや教師の評価補助簿等を活用して評価を行う。

単元計画には、単元の評価規準の観点を具体的な児童の姿に即して設定することに留意する。

(3) 評価に基づく改善のポイント

評価の結果、児童が語彙や表現に十分に慣れ親しむことができていないと考えられる場合には、Small Talk 等を活用し、既習の表現を繰り返し扱うことで定着を図る。また、児童が「書くこと」に対して負担を感じている場合には、言語習得の特性等を踏まえ、音声と文字とのつながりに十分に慣れ親しむ活動を設定するようにする。

(4) 学習指導案の実例

第6学年○組外国語科学習指導案

令和〇〇年〇月〇日（ ）第〇校時
 活動場所 6年○組教室
 指導者 教諭 〇〇〇〇

- 1 単元名 We Can! 2 Unit 5 夏休みの思い出
- 2 単元について 省略
- 3 児童の実態について 省略
- 4 単元の目標

- ・夏休みに行った場所や食べ物、楽しんだこと、感想などを言ったり聞いたりすることができる。
 〈知識及び技能〉
- ・過去の表現を用いて、夏休みに行った場所や食べ物、楽しんだこと、感想などを伝え合う。また、夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読み、例を参考に自分の夏休みの思い出について話したことを、語順を意識しながら書いたりする。
 〈思考力・判断力・表現力等〉
- ・他者に配慮しながら、夏休みの思い出について伝え合おうとする。
 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

(本単元における「話すこと [発表]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない)

	聞くこと (聞)	読むこと (読)	話すこと[やり取り] (や)	書くこと (書)
知識・技能	<技能> ①夏休みの思い出について話される短い英文の内容を聞き取る技能を身に付けている。		<知識> ①動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものについて理解している。 <技能> ②夏休みの思い出について、I went ～. や It was ～. を用いて、行った場所や食べたもの、その感想などを伝え合う技能を身に付けている。	<知識> ①語と語の間隔や活字体の大文字・小文字の使い分け、終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号について理解している。 <技能> ②夏休みの思い出について、語と語の区切りに注意しながら書いたり、大文字・小文字の活字体を書いたりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	①相手のことをよく知るために、夏休みの思い出について、短い話の概要を捉えている。	①相手のことをよく知るために、夏休みの思い出や感想について書かれた内容の概要を捉えている。	①相手のことを知り、自分のことを伝えるために、夏休みの思い出や感想について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを伝え合っている。	
主体的に学習に取り組む態度	①相手のことをよく知るために、夏休みの思い出について、短い話の概要を捉えようとしている。		①相手のことを知り、自分のことを伝えるために、夏休みの思い出や感想について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを伝え合おうとしている。	

外国語

6 単元計画（8時間扱い）

時	◆目標・○活動	評 価			
		知・技	思・判・表	態	◎評価規準<評価方法>
1	◆夏休みに行った場所を言ったり聞いたりする。				
	○Small Talk 話題：夏の食べ物 ○Let's Listen [教師の指導改善のためのポイント例] 登場人物の夏休みに行った場所やそこでしたこと等の聞き取りが不十分な児童がいる場合は、次の活動や第2時の Small Talk 等で不十分な部分を繰り返し扱う。 ○Let's Play ポインティングゲーム①② ○Let's Play 夏休みに行った場所 ○Let's Read and Write				★本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 P221 [評価についての考え方] 参照
2	◆夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所や感想などが分かる。また、その感想を伝え合う。				
	○Let's Play ポインティングゲーム①②（前時同様） ○Let's Watch and Think① [児童の学習改善のためのポイント例] 概要を捉えたよい例の紹介を聞いて、自分の記述と比較する。 ○Let's Play フェイントリピートゲーム ○Let's Chant "Summer Vacation" ○Let's Talk 夏休みに行った場所、その感想 ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters /p/の音で始まる単語を出し合い、4線の上にpを書く。				★本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 P214 指導計画作成の留意事項(3)
3	◆過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。				
	○Small Talk 話題：夏休みの思い出（行った場所・感想） ○Let's Chant "Summer Vacation" ○Let's Talk 夏休みに行った場所 ○Let's Play ポインティングゲーム ○Let's Read and Write	<input checked="" type="checkbox"/> ②			◎夏休みに行った場所や食べた物について尋ねたり答えたりしている。<行動観察>
4	◆夏休みに行った場所と食べた物について、その感想を言ったり聞いたりする。				
	○Let's Chant "Summer Vacation" ○Let's Listen ② ○Let's Play 食べた物 ○Let's Talk 夏休みに言った場所と食べた物、その感想 ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters /r/の音で始まる単語を出し合い、4線の上にrを書く。	<input checked="" type="checkbox"/> ①			◎夏休みの思い出や感想について、基本的な過去表現を用いて聞いたり言ったりしている。<行動観察>
5	◆夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりする。				

	<p>○Small Talk 話題：夏休みの思い出（行った場所・食べた物・感想）</p> <p>○Let's Watch and Think ②</p> <p>○Let's Play マッチングゲーム</p> <p>○Let's Play 夏休みにしたこと</p> <p>○Let's Read and Write</p>		<p>聞 ①</p>	<p>聞 ①</p>	<p>◎夏休みの思い出を聞き、その概要を捉えている。 <行動観察・ワークシート></p> <p>◎夏休みの思い出を聞き、その概要を捉えようとしている。 <行動観察・ワークシート></p> <p>◎語と語の間に間隔を空け、基本的な符号を使いながら文章を書き写している。 <ワークシート></p>
6	◆夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所、楽しんだこと、食べた物、感想を伝え合う。				
	<p>○Let's Chant "Summer Vacation"</p> <p>○Let's Listen③</p> <p>○Let's Play カードディステニーゲーム ①I enjoyed～.→②It was～.→③I ate～.→④It was～.</p> <p>○Let's Talk 夏休みの思い出</p> <p>○Sounds and Letters /s/の音で始まる単語を出し合い、4線の上にsを書く。</p>	<p>聞 ①</p>	<p>や ①</p>	<p>や ①</p>	<p>◎夏休みの思い出について話される短い英文の内容を聞き取っている。<行動観察></p> <p>◎夏休みの思い出について尋ねたり答えたりして伝え合っている。<行動観察></p> <p>◎夏休みの思い出について尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。<行動観察></p>
7	◆夏休みの思い出について書かれた文を推測して読んだり、他者に配慮しながら夏休みの思い出について伝え合おうとしたりする。				
	<p>○Small Talk 話題：週末の思い出（行った場所・楽しんだこと・感想）</p> <p>○Let's Read and Watch</p> <p>○Let's Read and Write</p> <p>○Activity 夏休みの思い出</p>	<p>英語で読まれる文章を指で追わせる活動をすることで、音と文が一致している児童を見取ることができるようにする。</p>	<p>読 ①</p>		<p>◎夏休みにしたことについて書かれた文章を読んで、文章の意味を捉えている。<行動観察></p>
8	◆自分の夏休みの思い出について話したことを、今まで書き写してきた文を参考に、語順を意識しながら書こうとする。				
	<p>○Let's Read and Write</p> <p>○Activity</p> <p>○Story Time</p>	<p>書 ②</p>			<p>◎自分の夏休みにしたことについて、語と語の区切りに注意しながら大文字・小文字の活字体で書いている。 <行動観察・ワークシート></p>

7 本時の展開

目標 夏休みに行った場所と食べ物、その感想を言ったり聞いたりする。

準備 デジタル教材・・・**デ教**、児童用テキスト・・・**テキスト**、絵カード・・・**絵カ**、CD ラジカセ・・・**CD**、
ワークシート・・・**WS**、振り返りカード・・・**振カ**

○本時の展開（4／8）

時間	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
1分	○挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。	
4分	○Let's Chant "Summer Vacation"	・チャンツの練習をさせる。	デ教

10分	<p>○Let's Listen ②</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声を数回聞いて、内容に合うように誌面にある登場人物と絵を線で結ぶ。その後、解答を確認する。 <p>音声を複数回聞かせることで児童が負担感なく活動に取り組むことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 三人の登場人物が夏休みに行った場所、したこと、食べた物、その感想を話している英語の音声を聞かせ、誌面上の登場人物と絵を選ばせる。 <p>デジタル教材の英語</p> <p>A: I went to the sea with my family. I enjoyed swimming. It was fun. And I ate watermelon.</p> <p>B: I went to the countryside. I enjoyed fishing. It was exciting. I ate o-bento. It was delicious.</p> <p>C: I went to the city. I enjoyed shopping. I ate ice cream. It was delicious.</p>	<p>デ教 テキスト</p>
夏休みの思い出を、みんなに伝えよう！			
10分	<p>○Let's Play</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童は、ペアになり、昨夜の夕食、今日の朝食で食べた物を相手と伝え合う。両隣・前後・斜めのペアで行う。 <p>P214 指導計画作成の留意事項(6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導者は、昨夜と今朝食べた物を、絵カードを見せながら紹介する。一方的に言うのではなく、児童にそれを食べたか、好きかななどを尋ねながら紹介する。この活動を通して I ate ~. の言い方を何度も聞かせ、次のペアの活動につなげる。 <p>T: I ate ~ last night. I like it! How about you? Do you like...?</p>	<p>絵力</p>
5分	<p>○Let's Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みに行った場所とそこで食べた物、その感想について、ペアで話す。 <p>S1: I went to the sea. I ate yakisoba. It was delicious. How about you?</p> <p>S2: I went to the department store. I ate pizza. It was great.</p> <p>S1: I see. Thank you.</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアを替えて、複数回対話をする。 <p>実際にコミュニケーションを行う中でねらいとする音声を聞かせることができるように、デモンストレーションの仕方を工夫する。</p> <p>ワークシートを配布し、家庭学習でも取り組ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導者はまず、自分が夏休みに行った場所やそこで食べた物などを紹介し、一人の児童(S1)に How about you? と投げかける。これを数名と繰り返し、児童にやり方を理解させるようにする。 <p>T: I went to the sea. I ate ice cream. It was delicious. How about you?</p> <p>S1: I went to the amusement park. I ate hamburger. It was good.</p> <p>T: That's nice. Now, let's talk in pairs.</p> <p>◎夏休みに行った場所と食べた物、その感想を基本的な過去表現を用いて、聞いたり言ったりしている。</p> <p>【知・技】・<input checked="" type="checkbox"/>・①</p> <p>〈行動観察・振り返りカード点検〉</p> <p>やり取りの中で、行った場所、食べた物、自分の感想の3点を述べている児童が見受けられたことから、A評価とする。</p>	
5分	<p>○Let's Read and Write</p> <p>書く文例: I ate (pizza). It was (delicious).</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声を聞いて繰り返し読んだ(言った)後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。 	<p>T: Listen to the sentence and look at the words in your textbook. Listen to the sentence again and read it aloud. Copy one word from the word box.</p>	<p>デ教 WS</p>

5分	○Sounds and Letters ・ジングルを一通り聞く。 ・誌面にある r で始まる単語を見て、発音する。 その音で始まる単語を制限時間以内に発表し合う。 ・ワークシートの4線上に r の文字を書く。	・ジングルを一通り聞かせる。 T: Listen to the jingle. Let's sing the jingle together. Look at the pictures in the textbook. Repeat after the jingle. ・サウンド・テニスをするを告げる。 T: Let's play 'Sound Tennis'. Think any words starting with /r/ sound. Now, say the words within five seconds. ・まず、指導者と児童全員で行い、児童が慣れてきたらペア対抗で行わせたり、制限時間を短くしたりしていく。 ・ワークシートの4線上に r の文字を書くよう指示する。 T: Write the alphabet "r" on your work sheet.	デ教 テキスト WS
1分	○本時のまとめをする。	・本時のねらいに照らしてまとめをする。	
4分	○本時の活動の振り返りをする。振り返りカードに記入する。 P214 指導計画作成の留意事項(2) ○挨拶をする。	・本時のねらいに照らして、児童の向上したことや学び方のよさを確認、実感できるように称賛する。 ・振り返りカードは児童の学習改善と教師の指導改善に活用する。 ・全体に挨拶する。	振カ 児童の主体的に学習に取り組む態度の評価の参考とする。

第5 外国語科における学習評価の評定への総括例

1 単元における観点ごとの評価の総括例

単元における観点ごとの評価については、十分に見取ることができる段階で行うことが重要である。また、内容のまとめりごとの目標に照らし、領域ごとに児童が身に付けた力を把握していくことも大切である。何回か行った評価結果のA、B、Cの数が多いものが、その観点の学習状況を最もよく表現しているとする考え方に立って総括したり、単元の学習後など、技能が十分に高まった段階でパフォーマンステスト等の評価場面を設定して観点ごとの評価を行ったりすることも考えられる。

観点	知識・技能					思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	や	や	書	聞	書	聞	や	読	聞	や	
領域	第3時 Let's Talk	第4時 Let's Play	第5時 Let's R&W	第6時 Let's L	第8時 Let's R&W	第5時 Let's W&T	第6時 Let's Talk	第7時 Let's R&W	第5時 Let's W&T	第6時 Let's Talk	
評価場面	行動観察	行動観察	WS	行動観察	行動・WS	行動・WS	行動観察	行動観察	行動・WS	行動観察	
評価方法	夏休みの思い出について、I went ~、やIt was ~.を用いて、行った場所や食べたもの、その感想などを伝え合う技能を身に付けている。	動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものについて理解している。	語と語の間隔や活字体の大文字・小文字の使い分け、終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号について理解している。	夏休みの思い出について話される簡単な語句や基本的な表現を聞き取る技能を身に付けている。	夏休みの思い出について、語と語の区切りに注意しながら書いたり、大文字・小文字の活字体を書いたりする技能を身に付けている。	相手のことをよく知るために、夏休みの思い出について、短い話の概要を捉えている。	相手のことを知り、自分のことを伝えるために、夏休みの思い出や感想について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを伝え合っている。	相手のことをよく知るために、夏休みの思い出や感想について、短い話の概要を捉えている。	相手のことを知るために、夏休みの思い出や感想について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを伝え合おうとしている。	相手のことを知るために、夏休みの思い出や感想について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを伝え合おうとしている。	単元における評価
児童1	B	A	A	B	B	B	C	B	B	B	B
児童2	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A

2 学期末における観点ごとの評価の総括例 (P 7 参照)

観点別学習状況の評価の総括結果から、「AAA は評定3」、「BBB は評定2」、「CCC は評定1」と考えられることをもとにして、他の場合については各学校で基準を設定、確認しておく。

3 学年末における観点ごとの評価の総括例 (P 7 参照)

学期末に総括した評定の結果を基にする方法、または、学年末に観点ごとに総括した結果を基にする方法から各学校で選択し、学年末の評定を決定する。